

駅前に残る懐かしい鎮守の森

大／阪／の／建／築／まちあるき——「やお・かしわら」

しぶかわじんじゃ
渋川神社



鳥居から拝殿へ



天然記念物の「くすのき」



「くすのき」のある街並み



拝殿

所在地： 八尾市植松町 3-3
最寄駅： JR 関西本線「八尾」駅
南へ約 300 メートルで、徒歩約 4 分
見学： 境内は自由
TEL： 072-922-0152

渋川神社は、若江郡の式内社であり、旧社格は郷社である。摂社は、巖島社・琴平社・浮島社・春日社・皇大神宮・東に樟神社・西に稲荷社・本殿背後に龍王社「龍王大神」。

祭神は、天忍穗耳命・饒速日尊(物部の遠祖)・国狭槌命(もと当地に鎮座していた比枝神社の祭神)・日高大神(もと栄町にあった狐山の神)・菅原道真(もと渋川にあった渋川天神の神)である。もとは旧大和川の東側の字川向にあったが、天文2年(1533)の大洪水で流失し、元亀3年頃(1572)に当地に移転したと言われている。この時、浮島神社は茨田郡新田村に漂着し、之を「よっぽどの宮」と称したが、数キロメートルほどであるが、発見後迎えて境内にまつたと言う。創建の年月は不詳であるが、往時より物部中臣忌部連等の一族位官を授かりて奉仕し、之を宮座と称し、宮田を置いて、祭祀、修繕の費用を弁じた。物部守屋の渋川の家の跡とも言われており、古くは竜華寺の鎮守であった。弘仁式段階で存在していた古社である。鳥居前の観音堂は昔の宮寺の一部であり、境内には大阪府指定文化財・天然記念物の樹齢一千年と言われる「くすのき」を含め、多くの大木がある。祭りは、夏祭り7/26「逆祭」と言うが、宵宮祭を後縁祭、後縁祭を宵宮祭と呼ぶ。これは洪水時御神体が上流に逆流したので言うようになった。

渋川神社は、JR関西本線「八尾」駅の南側、裏駅といわれる木造の駅舎から歩いて3.4分のところに位置し、裏駅と言われるように、細い道と古い木造の家並みがつづく昭和30年代にタイムスリップしたような佇まいが残る一角にひっそりと、でも存在感のある「くすのき」と一緒に鎮座している、まさに鎮守の森が駅前にある。(新田俊明)